

項目	確認事項	届出内容
<b>基本情報</b>	大学等名1(代表大学等)	筑波大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ツクバダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F108110101423
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	茨城県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	インターンシップI、インターンシップII、インターンシップIII
	学部・研究科等名	比較文化学類
	担当教職員名・役職	五十嵐沙千子・准教授
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	3
	受入企業等数	3
	受入企業等名	コロナ禍で当初予定していたインターンシップの大半が中止となった。
	インターンシップの分類	6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ 3.海外インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
<b>要素①</b>	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	単なる就業体験や就職活動の一環としてではなく、学生が大学での学びを生かし、社会に貢献できる方向を実践的に探る場としてインターンシップを考えている。そのため、インターンシップ先(企業、地方公共団体、NPO等)を選択する際に、大学での指導教員と面接して目的を明確にした上でインターンシップに参加し、参加後にはレポートとダイアログによって自らの学びを言語化する授業構造になっている。
<b>要素②</b>	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年

2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 1単位
2-5.上記回答内容に関する詳細	インターンシップI、インターンシップII、インターンシップIIIはそれぞれ2年生、3年生、4年生向けに設定された科目であり、3年間で合計3単位履修が可能である。また、学年別ではなく学年を超えた対話型授業として実施されているため、インターンシップ経験者(上級生)の体験が下級生に共有され、就業体験と大学での研究がプラスのスパイラルになるよう設計されていることが特徴である。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	<p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p> <p>5.その他</p>
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	対話形式で、前年度参加者からの体験の共有・相談などを行う「インターンシップ・オリエンテーションカフェ」を実施している。
3-2-2.該当する事後学習の内容	<p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p> <p>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている</p> <p>4.その他</p>
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	対話形式で、参加者同士でインターンシップ体験を共有し、大学での専門的な学びに就業体験を生かす「インターンシップ・リフレクションカフェ」を行っている。
3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	随時、大学での専門分野の指導教員およびキャリア支援委員と相談し、方向性を確認・修正している。
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	一般的なインターンシップの内容紹介、マナー講座、目的などの説明に止まらず、学年を越える参加者同士のダイアログを実施することを通して、自分のインターンシップの目的・方向性を明確にすると同時に、インターンシップ生同士の連帯やモチベーションの向上に資する。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	一般的なインターンシップの振り返り・自分の専門研究への橋渡しに止まらず、学年を越える参加者同士のダイアログを実施することを通して、自分のインターンシップ体験のリフレクションを深め、インターンシップ生同士の連帯やモチベーションの向上に資する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	学生にとって相談が必要な際にすぐ教員が対応できるよう、一年を通して随時、メールやzoomの相談・面談に応じている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	上で述べたとおり、学年を越える参加者同士のダイアログを実施することを通して、自分のインターンシップ体験のリフレクションを深め、インターンシップ生同士の連帯やモチベーションの向上に資する。また、そのことを通して、インターンシップに対する本学類生の意識向上に努めている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	単位取得のためには、連続した5日以上就業実施期間を指定している。
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	準備は、全体のオリエンテーションダイアログが一日、指導教員との面談・相談が一日、就業体験が5日以上(参加団体の規定による)、事後のレポート提出、さらに参加者全員のリフレクションダイアログが一日である。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	参加者は事前準備の段階でインターンシップ先と打ち合わせを行い、目的を明確にした上で指導教官と面談し、インターンシップ担当者に計画書を提出する。さらに就業先の担当者からの意見やコメントを大学に提出することになっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問い合わせ	大学等名	筑波大学
	担当部署名	比較文化学類
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	五十嵐沙千子
	電話番号	029-853-4242

先

メールアドレス

[igarashi.sachiko.gm@u.tsukuba.ac.jp](mailto:igarashi.sachiko.gm@u.tsukuba.ac.jp)